

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人社団 健昌会 ぐるーぷほーむ新里油木
(ユニット名)	悠々
所在地 (県・市町村名)	長崎県長崎市江里町7番21号
記入者名 (管理者)	中村 洋一郎
記入日	平成 21年 2 月 6 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>理念の中にも取り込んでいます。地域の中で生活していく中で、穏やかで安心できる生活を実現させ、日々の暮らしを楽しんで頂けるように取り組んでいます。</p>	<p>ホーム自体の理念を元にし、一人一人のスタッフが個人の理念を考え、より細かい心配りを出来るようにしたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>朝の申し送り時に職員で唱和し、念頭に置いて取り組んでいます。また、ミーティングや勉強会での「自分振り返り」を通して、ご入居者の尊厳を大切にしていけるように取り組んでいます。</p>	<p>○</p> <p>理念に基づいたケアが適切になされているか日々振り返りながら、より良いケアが行えるように、一層取り組みたい。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>各フロアに掲示しています。ご家族へは、家族懇親会や面会時を利用して理念について説明するように取り組んでいます。地域の方々へは、運営推進会議や地域活動への参加を通して説明しています。また、広報誌に理念を掲載してご家族へお渡ししています。</p>	<p>○</p> <p>これからも運営推進会議や地域活動を通して、地域の方々に理念を理解して頂けるように取り組んでいきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>毎日、近所の清掃や散歩時に挨拶をしています。又、近所の小学生が遊びに来る事もあり、ホームの行事にも参加して頂いています。</p>	<p>○</p> <p>気軽に話しかけてもらえたり、立ち寄って頂ける関係を増やしていきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会の行事に参加したり、ぐるーぷほーむの行事にも参加して頂いています。敬老会では踊りを披露して頂いたり、地域のソフトボール大会や旅行にも参加しています。また、自治会の消防活動にも参加し、お互い協力し合える関係作りに取り組んでいます。</p>	<p>○</p> <p>今後も運営推進会議や広報誌を通じて地域行事や活動予定の情報を共有し、可能な限り地域の一員として参加や協力をさせて頂きたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方に向けた健康教室をグループ内事業所と開催しています。 また、近所の認知症高齢者のご家族へ何かあったら相談して下さいと伝えてあり、実際に何度か相談がありました。	○	今後も健康教室などを地域の方々の意見を聴きながら続けていきたい。 また、自分達で力になれることはないか、呼びかけていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員其々が自己評価の実施やタイムスケジュールを作成する事で自分がどのような取り組みをしてきたか振り返りが出来る事を説明し、また前回の評価で指摘いただいたことを踏まえて改善策を検討し、質の向上に努めています。		より良いケアのために外部評価を利用し、改善に努め、見直しを図っています。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議でご入居者やサービスの状況、活動内容等について報告を行ない、地域、家族等色々な方向より意見を頂き、サービスの向上に活かしています。		会議の意見を参考にし参加されていない方々の意見も取り入れて反映していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターとは会議だけではなく、地域活動やネットワーク活動を通じて質の向上を目指しています。 認知症サポーター養成講座の開催等で、市役所とも連絡を取り合っています。		協力出来る事は今後も積極的に取り組んで行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の勉強会に参加しています。また、実際に活用している方もいらっしゃいます。		必要と思われる方への提案や、勉強会への参加を引き続き行なっていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束ゼロ委員会等で虐待や拘束が行なわれていないか定期的に話し合いを行ない、身体拘束ゼロに向けて取り組んでいます。	○	今後も、身体拘束ゼロ推進委員会の委員だけが考えるのではなく、職員一人一人がメンバーなのだという自覚を持ってホーム全体で虐待防止に取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書を用いて説明を行い、その都度質問や疑問点を伺いながら理解を得るようにしています。また、その場で了解を得るのではなく、再度よく説明を行い、よく検討して頂き、後日質問等無いか確認しています。	確実に理解・納得して頂ける様に明瞭端的に説明を行ない、不安の解消に努めたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでもどんなことでも話して下さるよう、常々伝えており、ご入居者と職員間でコミュニケーションを図るようにしています。また、運営推進会議で、外部者に意見を表せる機会を設けています。	意見や苦情など出された意見に対し、速やかに対応し、不満の解消に繋げるという姿勢を忘れず、向き合っていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には、日常生活等の状況を報告し、重要な報告等は、電話で連絡しています。また、ホーム便りを2か月に1度発行し近況報告を行なっています。職員の異動がある場合も報告を行ない。新入職員が入った場合は、広報誌等にも紹介するようにしています。	○ ホーム便りにご家族からのお手紙も返ってくるようになり、日々のご入居者の様子が共有できるようになり、これからも続けていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族懇親会で意見を言って頂けるように努めています。また、意見が言い難い場合は、意見箱に投書して頂くように呼びかけています。ホーム便りにも意見・要望を書いて返信して頂けるように用紙を作成し同封しています。	○ 意見を出しにくいご家族からもいいコミュニケーションを作れるように働きかけ、意見や提案をだして頂けるように取り組んでいきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングを利用して意見や要望を皆で話し合うようにし、細かい事でも意見を言い合いながら信頼関係を築けるよう取り組んでいます。	今後も細やかな意見交換の出来る関係づくりを行っていききたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	各フロアの対応が出来るようにユニットを越えた勤務を行ない、柔軟に対応できるようにしています。また、その時の状況で勤務時間を変更したり、職員数を増やしたりしています。	今後も、病院受診送迎等で職員が少なくなる時間帯があるので、そういう時はご入居者に迷惑にならない様、職員の連携でカバーできる様に質の向上に努めたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	急な異動にも対応し、ダメージを最小限に抑える事が出来るように日頃からユニットを越えた勤務を入れたり、他フロアのご入居者ともなじみの関係づくりに励んでいます。	今後も急な異動でも対応できるように、他フロアのご入居者の情報や対応を共有し、ご入居者のダメージを最小限に防げるように取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者からは、職員個人個人の能力に合わせた教育計画を行なうように促されています。</p>	○	今後も職員、個々の能力にあった研修への参加を促していきたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会へ積極的に参加し、他事業所との交流を図っています。勉強会も開催しています。</p>		今後もより多くの職員にグループホーム連絡協議会の催しに参加してもらい、様々な取り組みなどの情報交換を行なっていきたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>業務やご入居者対応等、悩みや問題がないか職員に個別に声をかけ話をするようにしています。また、希望休など可能な限り応じて、個々に応じたストレス発散ができるよう環境作りに取り組んでいます。</p> <p>休憩時間も設け、気分転換ができるように取り組んでいます。</p>		今後もカウンセリングを行う機会を作り、少しでもストレスを軽減できるように、環境を整えていきたい。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員1人1人の長所を見出し、向上心を持って働けるように努めています。運営者も現場を訪れて職員の努力や勤務状況の把握に努めています。</p>		今後も職員一人一人の長所を見出し、伸ばしていける様な指導を行い、向上心を持って働けるようにしたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に面談を行ない、グループホームがどのような所であるか説明をしています。また、見学をして頂き、不安に思っている事などをお聞きしています。</p>		ご本人の意思決定や、伝える事が難しい方がほとんどのため家族との話で予測して取り組んでいます。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居申し込時点で詳しく説明を行ない相談を受けています。また、些細なことでも相談して頂けるようにお伝えしています。</p>		今後もご家族の方が気軽に話して頂けるような環境を作りたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームだけではなく、他のサービスの説明も行ない、選択肢を広げています。また、必要時には可能な限り早急に検討し、他事業所を紹介したり、同グループ内の医療介護連携室で幅広い対応を心掛けています。		可能な限り、早急に検討し結果をご入居者やご家族に確実に報告できるようにこれからも取り組んでいきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学に来ていただいたり面接に行ったりして少しずつ馴染んで頂いています。また、本人が不安がある最初の頃には、ご家族や顔馴染みの方に面会に来て頂くようお願いしています。		今後も入居後も職員が関わりを持ちながら他ご入居者との間に入り、馴染んでいけるように取り組んでいきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩である事を忘れず、料理の味付けや花の活け方など、得意分野を知り、教えて頂いています。		ご家族の状況の変化やご自身の体調の変化等で一緒に泣いたり笑ったりしているが、今後もさらにご入居者と喜怒哀楽を共にしていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の入居者に対する思いを受け止め、支えていく為にも、職員も同じ思いで協力していくよう心がけているという事を伝えるようにしています。		今後もご家族とスタッフが同じ想いで入居者をケアしていただける様な絆や信頼関係を築いていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	今まで生活してきた環境や生活習慣、人間関係を把握し、出来る限り同じような生活をして頂けるように、途切れないように努めています。	○	外出や行事等への参加を多く呼びかけご入居者とご家族がともに過ごせる機会づくりに取り組んでいきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで生活してきた環境や生活習慣、人間関係を把握し、出来る限り同じような生活をして頂けるように、途切れないように努めています。		本人の馴染みの場所、知人等に会いに行ったり、継続的な交流が出来るような働きかけを今後もしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合うご入居者同士、近くに座って頂き、話が弾むように配慮しています。		今後もご入居者同士の支え合いをもっと引き出していき、本人の気持ちや意欲がもっとでるような場面を作ったりして、その人の個性をうまく活かせるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居されたご家族が遊びに来て下さったり、ボランティアに来て下さったりしています。		退居しても他のご入居者や職員と馴染みの関係があり、気軽に立ち寄って頂けるようにこれからも取り組んでいきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者の悩みや困っている事がないかを聞き、ご家族の意見要望を聞き、ミーティングの際話し合い、ケアプランを作成しています。		今後も日々の生活の中で自由に思いを語れる関係作りやご家族からの意見を把握していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの会話の中から情報を得て、今までの暮らしを把握するようにしています。		これからも知り得た事は記録に残し、センター方式のアセスメント用紙に落とし込んで活用していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の毎日の過ごし方やどのような気持ちで生活しているのか、一人一人の生活習慣を毎日の生活の中から感じ取り、把握するように努めています。		これからも知り得た事は記録に残し、センター方式のアセスメント用紙に落とし込んで活用していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のミーティングやその時の状況に応じて本人の状態、思い、希望を踏まえ職員同士で話し合いを行ったり、ご家族の意見要望を聞きケアプランを作成しています。	○	その人らしい生活をしていけるよう利用者本位のポジティブプランの作成を気がけていきたい。ご入居者の希望するものを読み取り、ご家族の意見アイデアを取り入れた計画を作成できるようにしたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しは行なっています。入退院後やレベルの変化等見られた場合、介護計画を見直し、状況に応じたケアが提供できるよう努めています。		今後も少しの変化にも対応できるよう状態が安定している方に対しても観察を行ないプラン作成に取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にはご本人が言われた言葉、その時の表情などを、極力記入しています。		どんな言葉に喜び、どういった時に笑顔がこぼれたか、表情、シチュエーションを細かに表現する事で、個々のケア、見直しに役立てたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人やご家族の状況、その時の要望に応じて通院、送迎等を行ない、医療連携体制の機能を活かし迅速に対応しています。又、他の病院受診の場合も移送サービスを行い定期的に受診していただいています。		今後も医療連携体制の機能を活かし、体調不良の早期発見や対応、入院の場合も早期退院できるように健康面でも柔軟な支援をしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議で地域の方々と協力できることを検討しています。また、消防署とは連携を図り支援して頂ける事になっています。		今後ご本人と地域の接点を見出し、周辺施設への働きかけやボランティアの協力を呼びかけていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人の意向で透析前にリハビリをして頂いたり、訪問歯科診療や、美容サービスを利用しています。		今後ご入居者の意向に沿ったサービスがないか模索していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加して頂いたり、地域支援ネットワーク活動や、その他の地域活動で協働しています。		今後も地域包括支援センターと協働して、ご入居者や地域への取り組みを推進していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関以外の医療機関を希望される場合は、基本原則としてご家族に対応して頂いていますが、受診前後にご家族と情報交換を行ったり、必要時には、かかりつけ医に電話連絡をし、助言を頂いたり情報交換を行ない関係を築けるように取り組んでいます。		個別のかかりつけ医への通院は、家族に依頼しています。職員が通院介助した場合は、特に変化がない場合も、家族の方に速やかに報告しています。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携医療機関に専門医が入っているので、必要に応じて相談や受診など行なっています。また、専門医から診断や治療、対処法などの指示を受けています。		今後も専門医から診断対処法など、指示を受け、信頼関係を築きながら、相談できる関係を続けていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	法人施設の看護職とも情報を共有しており、24時間体制で主治医・看護師が対応できる体制を作っています。		全入居者の状況把握のためNS間で情報交換をこまめに行ない、情報共有に努めています。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご入居者が入院した際には、医療機関に情報を提供しています。また、状況の確認や医療機関・ご家族との情報交換や相談を行ない早期退院できるよう取り組んでいます。		今後も入院中もご入居者・ご家族を支えていきたい。また、医療機関・ご家族とも情報交換をしながら、早期退院へ向けた取り組みを続けていきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の主治医、看護師と話し合いを持ち、看取りの指針を作成し、契約時に同意を得ています。	○	ご家族、医療機関と情報交換を密に行ない、体制を万全なものにしていきたい。また、勉強会の機会を多く持ち職員のスキルアップに取り組み、職員が不安を持たないようにしていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	グループホームでのターミナルケアについて知識や理解を深める勉強会を行ない、職員全員で今後の変化に備えています。		ご家族や医療機関との情報交換を密にし、職員が不安感を持たずに対応できるようにしていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人を交えご家族と十分に話し合いを行ない、情報交換、医療機関の紹介、調整等をして、スムーズに新しい場所で生活を始められる様に努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご入居者の話をする時は、ご入居者に聞こえない場所できるように配慮しています。また、個人情報外部には持ち出さず、処分する場合はシュレッダー処分を徹底しています。一人一人を人生の大先輩と敬い、自尊心やプライバシーを守る為の取り組みを行っています。問題と感じた時は職員で話し合ったり、身体拘束ゼロ委員会でも取り上げています。	今後もプライバシーや個人情報の大切さの理解をスタッフ間で注意しながら、徹底していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	ご入居者が思いや希望を伝えやすい雰囲気作りを心がけたり、こちらの意思を押し付けるのではなく、複数の選択肢を提案し自己決定できるように支援しています。	今後も日々の生活を一緒に送る中で、何が望みなのか、何に興味があるのかを探し、自己選択・決定が出来るように引き続き取り組んでいきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者一人一人の気分、体調に合わせて、個人のペースに合った支援に取り組んでいます。	今後もその人らしさとは何なのかスタッフ同士意見を出し合い、より良い生活の場になれる様に取り組んでいきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行きつけの美容院へ行かれる方、少しの間でもベットに横になられた後は、寝ぐせ直しのスプレーをかけて櫛を通す方がいらっしゃいます。	今後ご家族や美容院の協力を得ながらご入居者のおしゃれの好みを把握し、身だしなみに興味を失わない環境作りをしていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付け等、手伝って頂いています。職員も一緒に食事をし、必要な介助をしながら楽しい雰囲気を作るようにしています。	今後も食事のメニュー等、好みを伺いながら、楽しく調理や食事ができるようにしていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒やコーヒー等お好きなものを楽しんで頂いています。	今後も近所への買い物やお出かけ時にも好みのものが買える様に支援したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ご本人の希望や排泄パターンを知り、日中帯と夜間帯の対応を心掛けています。		引き続き個々のパターンを把握し、失敗を少なくし、トイレでの排泄をして頂き、気持ちよく過ごして頂けるようにしていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴する機会を作り、声掛けを行なっています。		引き続き、体調や希望(時間帯)を考慮して入浴を楽しんで頂けるようにしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の覚醒を促し、一日の生活のリズムを整え、夜間の安眠を促しています。一人一人の体調や希望等を考慮し、お昼寝をしたりして休息できるようにしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の出来る事や得意分野を見出し、その力を十分に発揮できるよう支援しています。そして「出来た事」「やってみようとした事」への喜びを分かち合い、感謝の気持ちを伝えるようにしています。		これからもご入居者の趣味や経験を周知し、その方に合った楽しみ気晴らしを支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金を管理させて頂き、その方の嗜好品、必要品を買いに行けるように支援しています。		これからもお金を渡して、ご自分で支払いをして頂くように取り組んでいきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出かけたいたい様子が伺える時は声掛けして散歩に出かけるようにしています。また、ドライブや買い物などお誘いしています。		今後も馴染みの場所(自宅等)や行ってみたい場所を会話の中から見つけて、対応していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間スケジュールを作成し、花見や外食など外出の機会を作っています。また、ご家族へも参加を呼びかけています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご入居者の希望に応じ、電話を使用できるようにしています。電話機もコードレスを使用し、居室でお話できるようにしています。手紙が届いた際にはご本人に渡し、必要に応じて代読しています。		今後も手紙等書けない方は、希望に沿って対応したい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者が来た場合には、必ず挨拶や会話をするように徹底しています。また、ご家族の面会の時には、近況報告も含めて積極的に話しをしています。訪問して頂いた時に感謝の気持ちを伝える事を忘れないようにしています。		訪問時に気分よく過ごして頂けるようにしていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ委員会を発足し委員会で話し合った事をフロアのミーティング時に報告したり、話し合ったりして身体拘束をしないケアに取り組んでいます。		身体拘束に対する知識と理解を深めてもらう為に勉強会、ミーティングでの報告を今後も行なっていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ご家族の要望もあり、エレベーターは暗証番号になっています。暗証番号がなくても安心して頂けるように、鏡を設置して死角を作らないようにし、実践を行なう中で安心感を得て頂けるように取り組んでいます。	○	安全策の為未だに解除出来ていませんが、ご家族の同意、安心を得られる様に取り組んでいきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	事前に対応策がとれるよう、ご入居者個別の落ち着かなくなる時間帯、傾向、原因を把握し、見守りなどして安全に配慮しています。職員同士、連携を取りリビングに職員が不在にならないようにしています。		今後もさらに徹底して、職員同士の情報を共有し、安全を図っていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	料理が出来る方には包丁を、ハサミが使える方にはハサミを使って頂いています。使用後の確認を行なう事で、危険を防いでいます。		一人一人の状況に応じて使用して頂くようにこれからも取り組んでいきたい。又、難しいと思われる方にも職員がそばについて、生活リハビリの一環として使用できるように取り組んでいきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会を行ったり、マニュアルの作成を行ない、確認できるようにしています。予防処置をミーティングの場で作成し、未然に事故が防げるように取り組んでいます。		引き続き、予防処置を行う事で、予測される事故を未然に防止できるように取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会や研修で知識を深めたり、マニュアルを作成しています。また、急変・緊急時のマニュアルも作成しており、医師・看護師と24時間連絡、対応がとれるように備えています。		今後も定期的な勉強会で応急手当や救命講習を繰り返し行ない、職員が全員対応できるように取り組んでいきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成しています。年2回の避難訓練を実施し、初期消火・通報・避難誘導の周知・徹底に取り組んでいます。また、地域での消防訓練にも参加し、地域の方々の協力を得られる様にしています。運営推進会議の場でも協力を呼びかけています。		火災時には地域の方々と協同して消火活動を行なうようにしています。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族と話をする時、現状報告、リスクの説明も行なっています。		今後もご入居者の日々の変化に合わせて見直しや対応策を確実に進めていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝のバイタルチェック以降にも体調等みて、再検報告を確実に進めています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の勉強会を行ない、薬の変更があった時は、新たにミーティングで報告がなされています。		今後も薬の変更に伴い、対応できるように知識を得る努力を続けていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便コントロールがうまくいこう野菜や水分の摂取、腹部マッサージや運動を促しています。それでも排便が何日もない場合には下剤を服用して頂いています。また自然排便が困難な方に対しては、定期的の下剤を服用して頂いています。		今後も排泄チェックシートを活用してご入居者の体調を見ながら働きかけを行いたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアやうがい等、個別に支援を行なっています。		今後も研修会や勉強会の参加で知識や技術の習得を行なっていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事摂取量、飲水量を記録し、個別にお粥や刻み食を提供しています。1日30品目を目標に献立を作成しています。また、看護師や栄養士に栄養指導をしてもらっています。		今後もバランスのとれたメニュー作成を心掛けていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	各種マニュアルを作成して、確認できるようにしており、定期的な勉強会を行っています。また、インフルエンザの予防接種を受け、ノロウイルス対策として、塩素消毒やペーパータオルを使用するなど取り組んでいます。		今後も事業所内で起こり得る感染症について全職員が研修や勉強会で学習し、予防・対策に取り組んでいきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所の清掃、調理器具の塩素消毒、新鮮な食材、安全な食材の入手を心掛けています。食材や調味料の使用期限もチェックし、期限切れがないようにしています。		チェックシートの活用を今後も続けていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に花を飾ったり、季節に合った置き物を飾ったりとご入居者や近隣の方たちにも楽しみを持って頂けるように取り組んでいます。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心の癒しのため、金魚を飼育したり、日中は童謡やクラシックをCDで流したり、穏やかに過ごして頂けるように工夫しています。また、ご入居者の作成した季節に合わせた作品を掲示し、季節感を感じていただける工夫をしています。		今後もご入居者一人ひとりが居心地の良い場所があるように工夫していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好みの場所の提供を行ない、話の合うご入居者同士を一つのテーブルに座っていただいたり、思い思い会話を楽しんだり、好きなテレビを見て頂いたりしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを持ち込んで頂いています。		なるべくご家族にお願いしていますが、そういうものがない方は外出や行事で買物をしたり、かわいいカレンダーを飾ったり、居心地のいい空間を得られる様にしています。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室、リビング、トイレ、浴室には換気扇が取り付けられており、天気の良い日は窓を開けて換気を行なっています。その際にご入居者の体調、様子を配慮し、ご希望を伺いながら行っています。		夜間帯と日中帯、日差しの強弱を感じながら、個々に合った換気空調を行なっていきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差、家具の配置等、転倒や事故の原因となるような箇所は、改善を行なっています。また、皮膚剥離がないようにベットの褥等にクッションや当て布をしています。		アクシデントが起こった際、報告書を回覧し同じような事故が起きないようにしています。また、対応の見直しをミーティングで検討し実践しています。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の表札に写真や名前を表示し、トイレや浴室にも表示をしています。		誰にもわかり易い表示を心掛けていますが、混乱や失敗があった時は、その都度話し合って改善していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花作りを共に行ない、外には野菜を植えたりしています。	○	今後もさらに多くのご入居者と庭造りを楽しんでいきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)